

令和4年度 第1回 上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 令和4年8月3日(水) 13時30分から15時30分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、暁委員、土井委員、東谷委員、
渡邊委員
- 事務局 松井部長、辻村課長、吉川課長、野崎課長、千葉指導主事、
岡田指導主事、中本課長、土井課長補佐、梅野主事補
- 次 第 開会
案件
 - 1 令和4年度教育委員会事業の取組について
 - 2 上牧町フリースクール事業について閉会

●議事概要

町長挨拶

- ・町内において、7月上旬頃から毎日10名、20名を超える新型コロナウイルス感染者が出ている。個人がすべきことをしっかりと行うことが、感染抑止につながると思う。知恵を出し合い、経験を積みながら、このような事態を乗り越えていけるよう、我々も頑張っていく必要がある。
- ・学校の適正化については、適正化協議会からの提言を受けて、上牧町の方針を示した。これから設計に入っていくという段階である。
- ・上牧町は住宅地のまちというのが特徴であり、子どもたちや高齢者の方々が安心して暮らせないということでは、住宅地のまちとしての誇るべきところがない。我々としては、教育、福祉、医療の部分にしっかりと力を注いでいくという考え方で、今後もまちづくりを続けていきたい。我々行政に携わる者も再確認をする必要がある。
- ・人口減少や少子化が進む中で、学校へ来ることのできない子どもたちが減らないというのはどういうことなのか。子どもたちが社会で生きていけるよう、我々はサポートをしていくことが大切であると考え、フリースクール事業の取組を行っていく。初めてのことなので、子どもたちの反応や保護者の意見を聞き、手直しを行いながら、安心できる居場所づくりを目指していこうと考えている。本日は、改修した施設の見学も予定しているので、ご意見をいただきたい。

案件1 令和4年度教育委員会事業の取組について

社会教育課長から、令和4年度町民プール入場者数について説明

文化振興課長から、劇団ペガサス特別公演について説明

案件2 令和4年度上牧町フリースクール事業について

教育総務課長から、令和4年度上牧町フリースクール事業について説明

今中町長 問題は、何名の応募があるか。全員を受け入れるのか、面接をして事情を聞きながら決めていくのか。実際に始まり、保護者同士で情報を交換する中で、我が子も行ってみようかなど、広がっていくのかなという思いをもっている。最初は多くても5名程度だろうと思っているが、やってみないと分からない。

渡邊委員 町内のボランティア団体の中に、フリースクールのような形で行っているところがあると思う。競合する必要はないが、教育委員会として、団体が何名程度の子どもを集めて、どのような活動をしているかは、把握しておく必要があると思う。

松浦教育長 先月、フリースクールを望まれている2名の保護者のかたと話をする機会があった。学校復帰というよりは、共同作業や校外学習等様々な活動を通じて、子どもに元気をたくさん与えてくれるような居場所にしてほしいというのが保護者の切実な思いだった。具体的な中身として、週に何回行うか等については、スタッフや子どもの予定、家族の思いも含めて、調整する予定をしている。また、名称についても「フリースクール上牧」と掲げるのがよいのか、英語等を使って溶け込みやすい名称にするのがよいのか、じっくり話し合っ決めていきたいと思う。

今中町長 近隣でフリースクールを行っている自治体は、あまり聞かない。

東谷委員 民間のフリースクールを利用するかたへの利用料の助成や支援をする取組はあるが、公共事業として役所が直接事業主体となって行っているところは、全国的にもあまりない。

松浦教育長 大和郡山市が先進的に行っている。教員が常駐する形である。

今中町長 過去には、町内でフリースクールのようなものを民間事業者が行

っていたこともあったが、解散となってしまったようである。民間のフリースクールを利用する場合は、利用料も低い額ではないと思う。払うことのできない家庭もあると思うので、そのあたりが難しい。

東谷委員 不登校児童をかかえる保護者にとっては、この事業は非常にありがたい。途中で頓挫することのないように、早く軌道に乗せて、うまく運営してほしいと思う。

渡邊委員 こういった事業は、選択肢が多い方がよいと思う。ボランティア団体とのタイアップも考えてよいと思う。

松井部長 団体の現状については把握できていないので、調査する。

東谷委員 要綱に書いているように「法人格を有する」という部分が大切になってくると思う。空中分解することもあるので、このように書いてあることに安心した。

土井委員 先々では、どの程度の人数が受け入れてもらえるのか。どの子も何がきっかけで不登校になるかわからない。もし、我が子が学校へ行くことができなくなったときに、相談して入ることができるのか。

松浦教育長 来るもの拒まずの形をとっていかないといけないと思う。しかし、不登校の原因がどこにあるかということは大切になってくるので、保護者や学校とのヒアリングも必要になると思う。今の段階では、何名入れるということを明確には言えないが、学校と連絡をとりながら不登校児童へのアナウンスをしていく中で状況を見て判断していきたいと考えている。

暁委員 デリケートな部分なので指導される先生の資質や思いが大切になってくると思う。軌道に乗って、人数が増え、指導者を増やすとなったときに、同じような思いと熱量で指導していただけるかたを確保することは、継続する意味で大変だと思う。

東谷委員 少なくともスタート時点での上限の人数は決めておく必要があるのではないかと。スタートしたが、人数が多くて、回らないといった

事態も考えられる。確実にスタートできる人数を把握しておく必要があると思う。

渡邊委員 今現在の不登校児童の数がわかっているのであれば、そこから上限を設定することは可能ではないか。

松浦教育長 指導者については、本町に携わっていただいている中で、専門性があり、前向きに取り組んでいただけた3名をお願いしている。人数については、全体を把握できていないので、設定することは難しいと思う。

東谷委員 施設の容量や予算の上限があると思うので、それらをもって、何名まで対応できるかということは、把握しておく必要があると思う。仮に大勢の応募があったときに、これでは打ち切ることも、選抜することもできない。

渡邊委員 9月にスタートをするならば、来る意思をもつ子どもたちが何名程度いるかを把握しておかないといけない時期ではないか。少し遅いように感じる。

松井部長 フリースクール開設については学校に話をしているが、具体的な話はまだ進めることができていない。
1階部分を含めた施設の完成については、町民のかたへ広報する必要があると思っている。募集については、積極的に行う方向性もあるが、まずは確実に進めていきたいと考えている。
上限人数については、委託事業者との仕様書の中で、面積から概ね15名程度という形で共通理解を図っている。要綱に盛り込むかは、今後検討させていただく。

東谷委員 要綱に定めなくてもよいが、主催側として、事業の適正という部分で押さえておかなければならない。仮に15名が来るような事態が起こったときに即座に対応できるようにしておく必要がある。

今中町長 今委員の方々に心配していただいている部分は、しっかりと考えておく必要がある。
指導者については、雇用するかしないかわからない現段階で、困っ

ておくということではできないので、様子を見ながら増やしていく。スタート時としては、3名確保しているの、一定の人数はまかなっていかれると思う。

暁委員 今現在、小中学校で対象になるであろう不登校児童生徒は何名程度いるか。

松井部長 令和4年5月31日時点で、1年間のうち15日以上欠席している児童生徒が11名、30日以上欠席している児童生徒が5名というのが現在の状況である。30日以上不登校児童生徒をかかえる家庭がかなり深刻だと思っているので、対象児童としてはまずはこの5名になるかと考えている。

暁委員 不登校には様々な事情がある。その子どもたちが学校へ復帰しよう、あるいは社会とつながろうとする居場所としてすごくよいことだと思う。ただ、誰でもどんどん来てくださいという、人数が増えていくということは、逆に学校へ行けない児童生徒が増えていくことになるので、本来のフリースクールをつくる目的とは異なり、本末転倒になるのではないかと思う。本来は学校へ行けるためのステップであって、学校へ行けないからどんどんおいでという場所になってはいけないと解釈している。学校へ行けない理由は何か、学校教育を含めてみんなでしっかり考えていかないといけないと思う。居場所をつくるだけではなく、フリースクールの位置づけを今一度考える必要がある。

松浦教育長 保護者のかたには、フリースクールの意図をしっかりと伝えた上で、来てもらう必要がある。

今中町長 社会の中でこういった問題がクローズアップされること自体がおかしなことで、不登校の子どもたちが増えていかないことが一番大切である。そのためにも、しっかりと子どもたちの様子を見ながら、学校での指導を行えるよう、先生方にも努力してほしい。しかし、現実にはこういった状況が生まれてきたときに、行政として、保護者の声や子どもたちの思いをしっかりと聞き、子どもたちの居場所の確保と学校、あるいは社会へつなげていけるような流れをつくっていかうということである。

- 東谷委員 行政の事業なので、本来であれば全町民のかたに周知すべきであるが、特殊性があるので、少なくとも30日以上欠席の5名と15日以上欠席の11名には周知できていなければならない。行政が特定の者だけに支援を行うということは、あってはならないと思うので、何らかの方法で、この部分までは周知をできているとおかないと、問題になってくる。
- 今中町長 こういった場合は、学校から先生を通じて案内するのがよいか、教育委員会から案内文書を出すのがよいか。
- 松浦教育長 対象となる保護者のかたへ案内を出すのもよいし、教室の後ろの掲示板等に掲示するのもよいと思う。全ての保護者のかたに出すという方法もある。
- 今中町長 まずは今、学校へ来ることのできていない11名と5名の家庭にお知らせをする方法をとってはどうか。
- 東谷委員 私もそう思う。
- 渡邊委員 不登校児をかかえる親としては、藁にもすがる思いなので、やるとなれば真っ先に知らせる方がよいと思う。困っているかたがいるのに、どうして早く言ってあげないのか、待たせる必要があるのか、という思いがある。
- 松井部長 町が積極的関与のもと行う事業なので、秘密に進めるものではない。ある一定の方向性については、全ての学校に在籍する保護者に周知する必要があるのかなと認識している。すでに30日以上欠席をしている5名については、保護者の考えも深刻度を増していると思うので、個別で学校の担任から補足での案内を行うという形で検討したいと思う。
- 暁委員 子どもたちは、どのようにして通ってくるか。
- 松浦教育長 基本的には保護者の送迎で考えている。
- 松井部長 今回、駐輪場を改修して、数台の駐車スペースを確保した。

- 東谷委員 場所を含め事業内容を全ての町民のかたに周知することがよいのかは、しっかりと考える必要がある。中には、知られたくないという子どももいるかもしれない。ただ、ある程度は知らせておかないと、特定の者だけになってしまうので、しっかりと考えてもらいたい。
- 松井部長 学校へのアプローチについては教育委員会所管で行うが、施設の改修完了については全町民へ周知する必要があると思うので、企画財政課と調整して、広報する方向で進めていきたい。
- 松浦教育長 学校とのヒアリングを行い、対象となる保護者のかたには最低限お知らせするということが大切だと思う。広く周知することがどうかという部分については、検討させていただく。
- 東谷委員 何かを感じるのか、学校では話はしないのに、同じような境遇の子ども同士だと話をしたりすることがある。まずは、こういった場所をつくって、子どもたちを家の外へ出す。社会の風に当てる。勉強は、その先の段階でよいと思う。基礎的な打ち勝つ力、免疫力のようなものをつけないと外へは出ることは難しい。親の思いというのは、なかなか子どもに伝わらないもので、何を言っても自分から外へ出ていくタイミングがあり、本人の力がつかなければどうしようもない。
- 今中町長 親だから背中を押すことはできるが、他人では、動かない。やはり、第一歩を踏み出す背中を押すのは、保護者だと思う。そのタイミングが合えば一番よいが、簡単に合うものでもない。
- 東谷委員 今すぐには言わないが、数年先には、この施設にオンライン授業ができる設備を整えてもらいたい。子ども同士が話をするあるいは学級の友だちとオンラインで話す、学級の授業をオンラインで受けることができたらいいと思う。
- 今中町長 先日、奈良県下の市町村長や国会議員を交えた勉強会があり、フリースクールについて予算要望をした。しかし、民間事業者が有料で運営していることもあり、国は消極的な考えで、なかなか難しいと感じた。本来こういったことは、学校でしっかりとやるべきことで

あって、やらなくてよいのが理想であるが、現実は違う。少人数でもしっかりと居場所をつくり、できれば学校へ、できなくても社会でしっかりと生きていけるような心の変化を子どもたちがもってくれるようになれば一番よいと思う。継続して行うとなると、財源は必ず必要になってくるので、そういった部分も考えながら、長く続けられるように頑張っていきたい。委員の皆様の意見をいただきながら、しっかりと議論し、よい方向で進めていけるよう引き続き協力をお願いしたい。